

## 平成 22 年度当初予算 施策別概要

### 227 農林水産業を支える 技術開発の推進

( 主担当部：農水商工部 )

- 22701 農業を支える技術開発の推進 ( 農水商工部 )
- 22702 畜産業を支える技術開発の推進 ( 農水商工部 )
- 22703 林業を支える技術開発の推進 ( 環境森林部 )
- 22704 水産業を支える技術開発の推進 ( 農水商工部 )

#### < 施策の目的 >

( 対象 ) 農林水産業者が

( 意図 ) 開発された技術を有効利用して、生産活動を行っている

< 施策の数値目標 > 21 年度実績値は 1 月末現在で把握できる見込み値を示しています。

施策目標項目 ( 主指標 )		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
研究成果が活用された件数	目標値	-	125 件	126 件	126 件	127 件
	実績値	127 件	127 件	126 件	126 件	

過去 5 年間の研究事業から生み出された研究成果のうち、次の 3 項目のいずれかに該当する  
研究成果が活用された件数 技術移転、 特許等の実施許諾、 研究成果の製品・商品化

県の取組目標項目 ( 副指標 )		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
技術支援件数	目標値	-	1,326 件	1,336 件	2,000 件	2,100 件
	実績値	1,305 件	1,925 件	2,003 件	2,000 件	

当該年度における事業に基づく技術支援や、生産者・関係団体等からの技術相談、診断・検査等に対応した件数

#### < 進捗状況 ( 現状と課題 ) >

- ・ 農林漁業者や消費者のニーズに対応して、平成 20 年に開発したイチゴ新品種「かおり野」の栽培許諾や平成 19 年に開発した酒造好適米「神の穂」の高品質栽培技術の確立を行ったほか、稲ワラに代わる和牛飼料の利用技術や高品質な真珠の生産技術の開発などを行いました。
- ・ 自立した農水産経営体の活発な事業活動を支えるためには、省力・低コスト化等の効率的な生産技術の開発と、消費者ニーズに対応した安全・安心で高品質な農水産物の安定生産や、競争力のあるブランド製品の育成などにつながる技術の開発が求められています。
- ・ また、食料・飼料自給率の向上や、地球温暖化の影響など生物生息環境の変化に対応できる技術開発が必要です。
- ・ 林業生産における新しい森林管理と中大径材の利用技術の開発、木造建築の設計に必要な県産材の強度性能の把握や、商品性の高いきのこの栽培技術の確立、及びニホンジカによる森林被害防除技術の開発が必要です。

#### < 平成 22 年度の取組方向 >

農水産物の高付加価値化やブランド化を進めるため、カンキツ・イチゴ等の新品種の開発を進めるとともに、真珠、肉牛、茶、みかんなどの品質向上につながる栽培・飼養技術の開発や、マハタの養殖技術の高度化に取り組み、競争力のある商品づくりに向けた研究を行います。また、近年の

飼料や肥料の高騰等に対応できる、耕畜連携や新たな飼料づくりなどの継続的・効率的な生産技術の開発を進めます。

農水産物の耐病性品種の育成や病虫害防除技術による安全・安心の確保、低・未利用食品残さの高度利用等による畜産飼料の自給率向上、高温登熟性のある水稻品種や高水温耐性のノリ品種の作出、干潟・藻場の再生・回復等による生物生息環境の改善、植物工場を活用した高度な栽培技術の開発を進めます。

産・学・官が参画した「食と農の研究コンソーシアム」形成に向けた基礎調査を実施するとともに、植物工場をはじめ、米粉、茶など緊急性の高い研究課題についての研究クラスター形成をはかります。

県産材の需要拡大のため、スギ梁桁材の効率的な乾燥技術の開発、尾鷲ヒノキの新たな機能性部材の開発と、県産ヒノキ材の強度性能の把握、商品性の高いきのこの栽培技術の確立や、ニホンジカの被害防除技術の開発に取り組みます。

#### <主な事業>

(重) 伊勢茶リフレッシュ支援技術開発事業【基本事業名：22701 農業を支える技術開発の推進】

(第6款 農林水産業費 第1項 農業費 14 農業試験研究費)

予算額：(21) 3,581千円 (22) 3,223千円

事業概要：茶業界が行う「伊勢茶リフレッシュ運動」を技術的に支援するため、省肥化や特産のかぶせ茶栽培に適応できる戦略品種を絞り込むとともに、品質及び生産力が落ちた老茶木を再生するための低コストで省力的な若返り技術を確立します。(戦略品種の選定、茶園更新技術の確立)

(重) 牛肉のおいしさ成分研究事業【基本事業名：22702 畜産を支える技術開発の推進】

(第6款 農林水産業費 第2項 畜産費 3 畜産試験研究費)

予算額：(21) 1,436千円 (22) 1,292千円

事業概要：県内産和牛の肉質の安定と向上をはかるため、枝肉の脂肪含量などのうま味成分と食味試験等によるおいしさ成分の総合的な解析を行い、肥育方法を改良して、松阪牛肥育農家での実証試験を行います。(うま味成分分析、肥育技術の改良、実証試験)

(重) マハタ、クエの種苗生産・養殖高度化技術開発事業

【基本事業名：22704 水産を支える技術開発の推進】

(第6款 農林水産業費 第5項 水産費 10 水産試験研究費)

予算額：(21) 6,528千円 (22) 5,875千円

事業概要：マハタ、クエを東紀州の地域ブランドとして定着させるため、高品質種苗を安定して生産する技術を確立するとともに、養殖技術の高度化に関する技術開発を行います。(マハタ・クエの種苗生産、養殖高度化技術の開発)

(新) 食・農研究クラスター創出事業

【基本事業名：22701 農業を支える技術開発の推進】

(第6款 農林水産業費 第1項 農業費 14 農業試験研究費)

予算額：(21) - 千円 (22) 11,878千円

事業概要：農業・畜産研究所を核に、産・学・官が参画した「食と農の研究コンソーシアム」形成に向け、県産農産物活用意向や事業者のニーズを調査するとともに、植物工場をはじめ、米粉、茶など緊急性の高い研究課題についての研究クラスター形成を先行的にはかります。(農産物の活用意向調査、事業者のニーズ調査、課題別の研究活動)

ニホンジカの生息密度管理と森林被害防除に関する研究事業

【基本事業名：22703 林業を支える技術開発の推進】

(第6款 農林水産業費 第4項 林業費 10 林業試験研究費)

予算額：(21) 2,542千円 (22) 1,450千円

事業概要：正確な生息数等が想定できる地域を選定して、精度の高いモニタリング調査を行い、捕殺が生息数と被害量の推移に与える影響を明らかにするとともに、引き続いて、低コストで効果が期待できる被害回避策を追求します。(ニホンジカの生息密度管理と森林被害防除)